
高木 × 佐藤

キャンディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高木×佐藤

【Nコード】

N2968Y

【作者名】

キャンディ

【あらすじ】

とにかくみてみよう\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$

血だらけの彼女が人質になっていた

犯人は自殺をしようとしている

犯人と彼女のすぐ後ろには、、、、、

海。

目暮警部が一生懸命自殺をとめようとしているようだった

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

スズキ ユウト 「ワタナベ ユキコ」  
犯人は20年前の恋人を殺した。

おととい犯人を取り押さえようとしたときナイフで腹をさされた。

さっきまでそのまま意識をうしなってしまうていた

目を覚ましたときなぜか嫌な予感がした。

すぐに佐藤に電話した。

ぶるるるるるるる

するとべつとの横にある机で佐藤の携帯電話が鳴る。

「はああ」

ため息をつく

忘れていつてしまったのだとおもい自分の携帯電話をとじる。

しかし、やっぱり嫌な予感がし佐藤の携帯電話を開きメールを見る  
最新のメールは目暮からのメールだった。

「犯人のスズキが●●海岸付近のコンビニで捜査官に見つかり逃走  
している至急応援にきてくれ」

高木は窓から外に飛び出していた。

嫌な予感がする。

はしって●●海岸にたどり着いた。

するとがけつつぶちで血まみれの佐藤がぐったりとして人質になっ  
ていた。

がけのところまで全力疾走する。

「さとおさあん」

必死で叫ぶ。

目暮「た、たかぎくん」

その場にいたコナンも麻醉銃をしまう。。。

1（ここは高木刑事の出番だな）

高木が息をきらせながら犯人たちに近づく。

犯人「く、くるなよ」

高木「佐藤さん、佐藤さん」

大声で佐藤を呼んだ

少年探偵団と阿笠博士はドライブにきていた。

しかし30分後、、、

あゆみ「なんだかくもつてきたみたい」

源太「ほんとだくらいぜえ」

光彦「さっきまであんなにはれていたのに、、、」

しばらくして、、、

こなん「あ。。。降ってきちまったな」

元太「ちえっ」

阿笠「天気も悪くなってきたしまったし、ガソリンを入れて帰るか」

元太「じゃあかえったら博士んちでゲームでもすつかあ」

光彦「ああいいですね」

あゆみ「やろつやろつ。コナン君もね？」

コナン「あっああ」

ガソリンスタンド、、、

博士がくるまを降りてガソリンをいれる

光彦「あっあああ」

コナン@「どうした光彦」

光彦「あっあれえ」

光彦がゆびさしたほうをみる

元太「あの男がどうかしたのかよ」

あゆみ「あーっあの人ニュースでやってた」

コナン「ああ間違えねえ殺人の罪で指名手配されているススキユウトだ」

こなん「目暮警部に電話してくるな」

目暮に電話する、、、

パトカーが数台到着するとスズキは逃走した。

博士が車に乗り込む

博士「こなんくんは、、」

歩美「コナン君ならあそこの公衆電話で目暮警部に電話してる、、」  
「

元太「あっあれあいついねえぞ!!」

こなん「ねえ刑事さん」

刑事A「ええっ君なんでここに・?？」

「こなん」へへへへへ。」

刑事B「おろしてる暇はねえ今はとにかく追うんだ」

しかし犯人は海岸近くの林にはいつてしまった。。。。

「佐藤さん、、佐藤さん」

近くで自分を呼ぶ声が聞こえ目を覚ます。

1（高木君??）

からだ中がずきずきと痛む。

1（高木君はおとといから病院に、、）

自分が一歩うしろにひきずられる

犯人「う、、うるせえ！！近づくんじゃねえ！！！！こいつも一緒に飛び降りるゾ！！そこをどけ」

目暮「おちつくんだ」

人質になっていることに気づいた佐藤は、、

力をふりしぼり足に力を入れる

「そうは、、させないわよ」

高木「！！！！」

佐藤の首もとを押さえつけていた犯人のがつちりとした手をつかみ

そのからだを地面に投げつけた

高木が佐藤のところに駆けつける。

ふらふらと膝をつく佐藤の肩を支える

高木「さっさとうさん!!大丈夫ですか??」

佐藤「高木君、、」

そっついながらもさとうの視界はどんどん薄れていく、、

そのまま高木へ身を任せて気をうしなってしまった

佐藤さんの病室の前。

佐藤さんはまだ目を覚まさない。

犯人のスズキユウトはいま取り調べをうけている。

昨日、佐藤は目暮からのメールを見たあと病院に迎えに来た千葉の車で海岸へむかった。

林に逃げ込んだ犯人を見つけ拳銃を準備していたとき、

背後からきていた犯人の仲間の暴力団らがスタンガンで千葉を気絶させた。

それから佐藤は犯人に立ち向かったが5、6人の暴力団たちに鉄棒などでなぐられた。

目暮たちが来る足音が聞こえたとき犯人は佐藤を人質にし、自殺をしようとしたのであった。

目暮「今日は佐藤君についてやってくれ」

高木「え、しかしとりしらべが、」

目暮「それはわしらにまかせなさい」

――由美との電話――

由美「美和子、大丈夫なの??」

高木「あ、まだ意識はもどってないんですけどね。」

由美「へえ。。。たかぎくんは大丈夫なの??」

高木「僕はもう明日で退院する予定です。さすがの佐藤さんも暴力団には、」

由美「美和子、寝不足だったのよ。」

たかぎの言葉を遮るように由美が言う。

高木「え??」

由美「おとといから2日間仕事終わってから高木君に着いてたから、」

由美「顔色もあまりによくなかったし」

高木「、、、」

由美「だから高木君もちゃんとしてあげるのは!!分かった? ？きるよ?」

たかぎ「あゝ、はい」

でんわがきれた。

## 5 編集うー

がらがらうー――――――――――  
――

高木は佐藤の病室に入る。

「あ、あれ??さ、さとおさん?..」

「さ、さとおさああん」

がらがら

「た、高木君!..」

「なにしてんのよ」

高木「なにしてるって佐藤さん大丈夫なんですか??」

佐藤「大丈夫って、、高木君こそ、、怪我大丈夫なの?」

と言いながら佐藤さんはベットに腰掛ける。

その横に高木も座る

高木「あ、はいおかげさまで」

よく見ると佐藤の左腕に包帯が巻かれている。

顔や手にもかすり傷がたくさんある。

たかぎは少しうつむき

高木「無茶しちゃだめじゃあないですか」

佐藤「無茶なんて、、、、」

高木が佐藤の肩をもちベットに押し倒す

高木「さとおさんが無茶して僕と一生会えなくなったりしたらどうするんですか」

佐藤「高木君、、、、」

高木「あ、、、、す、、、、すいません、、、、きょ、、、、今日はしっかり寝てください」

佐藤の肩を押さえつけていた手をはなす

がしっ

手を捕まれる

そして引き寄せられる

3秒ぐらゐ見つめ合つてゝゝゝ

CHU。。。。。

1週間たった。

佐藤は退院した。

キスした後、佐藤にふとんをかけ、部屋を出た。

佐藤もいつもどおり仕事ができるようになった。

一緒に缶コーヒーをかいにいったき

2つめのコーヒーのボタンを押そうとしたときだった

左腕にアザがみえた。

あゝ、あれ????佐藤さん左腕にひびがはいつてたようなゝゝ、

思わず佐藤の手をつかむ。

佐藤「ちよつ、、、ちよつと高木君、、」

佐藤は少し痛そうな顔をする。

高木「ここ、、まだ治ってないですね」

佐藤はボタンを押し、コーヒーをとりながら言う

佐藤「だいじょうぶよ。このぐらい」

高木「大丈夫じゃないです。」

高木は佐藤の右手を引っ張り一課に戻るそして佐藤の左手」を手当した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2968y/>

---

高木×佐藤

2011年11月12日18時45分発行